

2013年4月18日

## アマクサミツバツツジ

アマクサミツバツツジ。

カタカナ表記だが、漢字で書くと、天草三葉躑躅だろう。

ミツバツツジは、

ミツバツツジ(三葉躑躅 *Rhododendron dilatatum*)はツツジ科ツツジ属の落葉低木。また、近縁のミツバツツジ類の総称でもある。関東地方から近畿地方東部の太平洋側に分布し、主にやせた尾根や岩場、里山の雑木林などに生育する。他のミツバツツジ類の多くは雄しべが10本なのに対し、本種は5本であることが大きな特徴。古くから庭木としても植えられるが、盗掘の影響もあるせいか野生の個体数は決して多くない。

ミツバツツジ類は、4-5月頃に咲く紅紫色の花が美しい。花が終わってから葉が出てくる。

枝先に三枚の葉がつくことからこの名がついた。〈wikipedia〉

と、広く分布しているようだ。

品種も多い。

その一つが、アマクサミツバツツジ。

上天草市にしか自生していない、熊本県のレッドデータブックで絶滅危惧種に分類されている、貴重な花木である。

このアマクサミツバツツジが、今上天草市姫戸町の白岳キャンプ場への道路の沿線に、咲いている。

薄紫の花だ。

ボクは、花に関しては詳しくないが、ツツジで花の色が薄紫の花はこのミツバツツジだけではないだろうか。

可憐で美しい。

絶滅危惧種というが、この近辺では、群落というほどではないが、たくさんあり、見ごたえがある。

ただ、この近辺だけにしかないのも、絶滅危惧種になっているのだから。

アマクサミツバツツジを検索していたら、松島町今泉の次郎丸にもあるらしい。

次郎丸でアマクサミツバツツジを鑑賞する登山の会もあるとか。

他にも、天草には貴重な植物資源がある。苓北町富岡の曲埼にしか自生していない、



ハマジンチョウ。

倉岳町棚底に、日本でも3本しかない  
というアイラトビカズラ。

動物にしろ、植物にしろ、一度種が絶  
滅したら、復活はあり得ない。

これら貴重な種を護ることは、天草人  
全体の使命である。

